



平成24年1月23日

卓話 『地球目線で未来をデザインする』

京都造形芸術大学教授

竹村 真一様

私は人類学が専門で、20代の頃、南極以外はほとんど踏破しました。それは人類学の関心もありますが、もう一つは1人の人間の人生の中で、地球全体を自分の身体感覚で経験しうる初めての世代であるという感覚でした。その中で地球温暖化含めていろんな問題を感じ、地球環境問題を講義するようになったんですが、言葉で伝えられることは限界があって、もっと実感を持てるものがないだろうかという思いで、いろんな技術者やデザイナーと関わり、こういう地球儀のようなものを開発しました。これはイメージではなく本当にリアルタイムです。雲も1時間ごとにインターネット経由で最新の衛星データをダウンロードし、毛利さんや向井さんしか見れなかった宇宙から見た地球をリアルタイムで見えるようにしたものです。政治家もこれを見ながら政治をすれば、もう少し早く世界的なアラート体制がとれるだろうと思い、COP15とかダボス会議でもプレゼンテーションさせていただいております。荒唐無稽だと思われたアイデアも、こうやって実現できる時代が来ています。

地球表面の7割は水で覆われています。液体の水がこれだけふんだんに存在する星はなかなかありません。有り難い、宇宙の中で極めて希少な星です。液体の水があることで、生命が生きられる以外に、非常に気候が安定します。温度変化を緩和する緩衝剤みたいな役割を果たしています。地震とか津波も、これは地球の健康な胎動であり、例えば台風は海を深いところまでかき混ぜて、深層水という栄養豊かな海水を表面にもた

らし、それでプランクトンが大爆発し、漁業資源が豊かになる。火山とか台風とか地震すらも災いと恵みは裏表です。ですから私が政府の復興構想委員として提案したのは、津波とか地震は有るのを前提に都市をデザインしよう、我々が地球の変動と共生できるだけの強靱なデザインを持っていれば、災いは受け流し、何とか適応して恵みを受けられる形でやって行けるということ。そういう思いでこの地球儀を世界中に持って行って、レクチャーさせていただいています。

大気汚染物質を可視化すると、どこで発生した汚染物も地球をぐるぐる回っています。これを見ると本当に子供たちも地球は1つだということが理解できる。私たちは自覚を持ってビジネスの在り方とか社会の在り方を変えなければいけない。原子力も石油ももうだめです。じゃあ何でやっていくのか。太陽光とか風力、水力が原発や石油の代わりにはならないというのは10年前の常識です。今、世界の風力発電の発電容量は世界の原発全部合わせた半分ぐらいまで来ています。あと5年ぐらいで多分原発の代替ができるまで行くでしょう。EUは2050年までに自然エネルギー100%で電力を賄えると発表しています。子供たちにこういう元気のあるメッセージを伝えたい。何かと一緒にできることがあれば是非よろしくお願ひします。ありがとうございました。

